

# 日産創業の鮎川

## 社会・産業発展に尽力

北九州市戸畑区のJ R戸畑駅横シヨッピングセンター沿いコンクリート壁に、「戸畑鑄物株式会社 発祥記念の碑」と刻まれたプレートがはめ込まれている。明治43年（1910）、創建された東洋で初の可鍛鑄鉄工場の跡。街中とはいえ静かなたずまいのこの地から、日本の近代産業の礎の一つが鮎川義介によって生まれ、育ち、羽ばたいた。

可鍛鑄鉄とは、炭素を含む硬い鉄合金を熱処理し粘り強さを持たせた鑄鉄。薄肉の小物の自動車部品、機械工具、建築用材など幅広く活用できる。鮎川は最新工業技術を学ぼうと明治38年（1905）



鮎川義介氏（日立金属株式会社提供）

アメリカに留学。同地の工場で翌年から1年がかりで可鍛鑄鉄製造を習得し、同年帰国。大叔父の明治の元勲井上馨らの援助で戸畑に戸畑鑄物（株）を創業した。時に31歳。彼自身は山口県出身。戸畑に立地した理由は、燃料の石炭入手に便利で製品などの運送基地・若松に近い。さらに親族の炭鉱王貝島家から戸畑に所有する土地を提供されたこと。2年後、工場は稼働し管継手などの生産が始まった。当初は赤字続きだったが第一次世界大戦勃発で注文が殺到し2年後黒字に転換。製造に電気炉を導入するなどの合理化、効率化も推し進めて成長。また昭和2年（1927）、やはり親族（義弟）の久原房之助が起こしていた鉱山経営の久原鉱業が経営難で行き詰まった時、鮎川が社長を引き受けて再建した。この久原鉱業を翌3年、日本産業と改称した。日産という名のルーツである。

### 日産自動車の誕生

自動車事業への進出は昭和8年（1933）、小型鑄物の生産では成長に限界があるとして「今は自動車工業に乗り出す好機である。田舎の鑄物屋から自動車部品会社に転向することにした」と戸畑鑄物に自動車部を設置したことが始まり。同年末、横浜に自動車製造（株）を創業し翌9年、日本産業直轄の日産自動車（株）に改称した。当時、自動車製造事業所は少なく、三井、三菱財閥も不安定とみて手を出していなかった。鮎川は外国人技術者を招いてアメリカ式ベルトコンベアによる大量生産方式の工場にし、安全操業にも意を注いだ。そこで誕生したダットサン14、15型ロードスターは小型車の代名詞となるほどだったという。

鮎川はまた、日産コンツェルンの創始者でもあった。コンツェルンとは持ち株会社を中核として多数の多分野の企業と共存共栄を図る企業集団。日産コンは、日本



創業当時の戸畑鑄物（日立金属株式会社提供）

産業を持ち株会社とし日本鉱業、日産自動車、日立製作所、国産工業（後の日立金属）などが参加し、戦前、日本の十五大財閥の一つ、鮎川財閥とも呼ばれたとされる。昭和12年（1937）に旧満州（現：中国東北部）の満州国政府、関東軍の要請で日本産業を満州重工業（株）（略称：満業）に改称して満州・新京に移転。満州産業開発5か年計画を担う国策会社になった。だが同地には期待通りの資源は

なく進出各社の負担増大などから計画は破綻、やがて日本敗戦となった。

### 社会、平和活動にも熱かった

戦後の鮎川には、戦前の満州産業開発5か年計画の遂行機関の満業総裁として、戦争遂行に参画したとGHQから判断され、1945年12月、準A級戦犯容疑者と指名され巣鴨収監の憂き目が待っていた。2年後、誤解は解けて釈放され活動を再開した。それは、大規模な水力発電



JR戸畑駅近くのコンクリート壁に表示されている戸畑鑄物発祥記念の碑

所建設による電源開発構想であり、自動車の普及、戦後の復興を目指す全国自動車道路建設計画作り。自ら調査・研究を重ねて政治運動化し、やがて国策の電源開発会社、日本道路公団に引き継がれ、今日の我々の社会につながっている。鮎川はまた、満州時代を通じてアメリカでの人脈を生かして日中戦争、さらに日米戦回避の運動を続けていた。さらに昭和17年（1942）満業総裁退任で実業界の第一線を退き、義済会という社会公益団体を設立。戦争の早期終結、国運発展を図ることを目指しその一環として大原社会問題研究所などを支援したことが分かっている。GHQからの戦犯容疑者扱いが間違っていたことは明らかだった。

鮎川は明治13年（1880）、山口県吉敷郡御堀村（現：山口市大内御堀）で元

長州藩士の家に出生、母が井上馨の姪。井上からは「貴様は将来エンジニアになれ」と告げられ東京帝国大学卒業、工学士の肩書きを秘して芝浦製作所に職工として入所。そこで鑄物を知りアメリカ留学に結びついた。昭和42年（1967）没。戸畑との結びつきについては安藤良雄著「昭和史への証言2」で「大学卒業、井上馨さんの関係で三井に好条件で迎えられようになつていったが上層部に尊敬を払えず人並み外れた方面に走り、やがて私の事業の揺籃、戸畑鑄物会社となって表れるに至った」と述べ、また「社名に人の名を冠せることは嫌い。個人の事業ではない。日本の全体の産業だという意味で日本産業とした」とも話している。

戸畑鑄物はその後、国産工業と名を変え日立製作所と合併、日立金属工業（株）、

その後、現在の日立金属（株）に社名変更、昭和55年（1980）、荻田町に移転した。

北九州市自然史・歴史博物館 歴史課長の日比野利信学芸員は「明治時代末から昭和にかけて、安川家が若松から移ってきたほか次々に戸畑に立地した。その動きを鮎川も目にしていた。日産は戸畑から始まったのだ、ということを意識する人は今いない。鮎川の存在、業績がもつと知られて欲しい」と話している。

シニアスタッフ 村田和夫

今回の歴史文化塾は感染予防のため中止致します。